

第3回ゆいごん大賞選考結果発表

<大賞>

あわてずに ゆっくり来いと 妻に宛 (茶唄鼓/ちゃかどん 広島県)

(講評) 自分の死期を予測し遺言を書いたのでしょうか。黄泉から妻に呼びかけているような作品です。ゆっくりだから僕が亡くなっても「長生きしてほしい」との思いやりが感じられる。このような遺言は珍しいです。お金や財産、資産についての遺言が多い中で、妻だけに送る人間愛が感じられる作品です。ひと味違った遺言だと思います。

<入賞>

下書きを 妻に見つかり 書き直す (本間 奏 兵庫県)

(講評) 遺言は誰もいないところで書くもの。どんな理由かわかりませんが、妻にその下書きが見つかった。慌てて書き直したところを見ると、文の中身はさぞかし妻にとって満足なものではなかったのでしょうか。

遺言の 父の癖字が 愛おしい (イナバウアーの白兔 千葉県)

(講評) 遺言を見て、父さんの癖字だとありありとわかる文字でした。思わず愛おしさが溢れてきたのでしょうか。左肩上がりや丸字などその人の癖は直らないそう。これは確かに本人の書いたものだとの証しにもなります。

遺言を 書いた私が 生き残り (伊藤 進 山形県)

(講評) 遺言は先に逝く人が残る人に書き残すものです。その遺言を書いた人が生き残った。逆の状態となったケース。このような状態はあまりないと思いますが、こんな例もあるということかもしれませぬ。

<佳作>

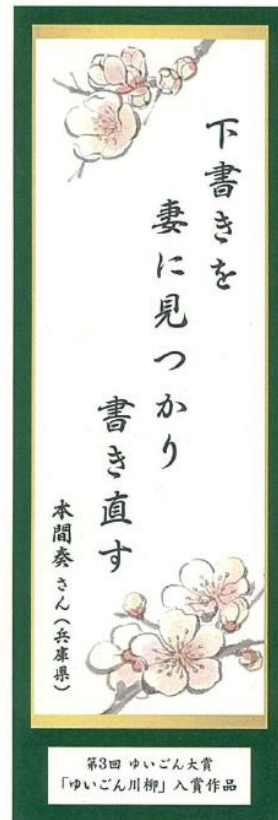
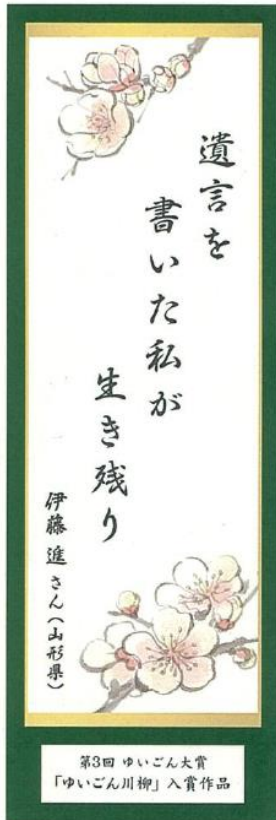
- ・遺言に 無口な父の ころころ知る (西 みなみ 神奈川県)
- ・ゆいごんで 初めて知った 親心 (シャイン・マスカット 山梨県)
- ・五輪見て 万博行ってから書くよ (となみ 埼玉県)
- ・遺産分け ケンカするなら 寄付するぞ (高木 直子 東京都)
- ・遺言を 書いて自分の本音知る (ひよどり 北海道)
- ・少しだけ 我が儘入れて 夢託す (月日備人 神奈川県)

<平成・新元号にちなんだ句> ※受賞作品ではありません

- ・新元号 「平成」 もまた終活に (匿名)
- ・遺言で 平成最後 締めくくる (クルミミルミル)
- ・平成と 歩調合せて 遺言書 (マツチ坊)
- ・平成の 終わりに遺す 我が思い (日野まる)

- ・とりあえず 元号の欄 未記入で (匿名)
- ・元号を 入れたいからと 先延ばし (ももすもも)
- ・元号の 発表直後 遺書に書く (エミテン)

<ゆいごん川柳しおり>



期間限定で、東京・名古屋・大阪の書店で配布されるゆいごん川柳しおり